

専門分野

小児看護学（講義4単位・実習2単位）

1. 小児看護学の考え方

小児医療の急速な発展のなかで小児看護は、胎生期から成人の移行期までを連続性のある対象ととらえ、各時期のニーズに応じた支援の提供が求められている。看護実践の場も多様化し、新生児集中治療室や小児救急などでは、高度に専門化された看護がおこなわれている。地域では、精神遅滞・情緒障害・肢体不自由児などが多くの時間を家庭で生活しており、サポートが必要な状況である。また、急性期の周手術期の看護のみならず、長期的に障害を有す可能性のある疾患をもつ小児と家族への継続的な看護の必要性が重要視され、包括的ケアへと発展している。

そこで、小児看護学では、あらゆる発達段階と健康段階に応じた看護を理解するために、多様な状況にある小児と家族を設定し、それぞれの状況の中で、小児と家族へどのような看護が必要なのかを理解するための基礎的知識を学ぶ。その過程で、小児は、環境との相互作用の中で生活し、成長発達し続ける限りない可能性を持つ存在であることやひとりの人格を持ち、尊重されるべき存在であるととらえる姿勢を学ぶ。

2. 目的

小児各期の特徴、小児を取り巻く環境や守られるべき権利と倫理を理解し、小児の正常な成長・発達を促すための養育と、健康を障害した様々な健康段階の小児と家族に対する看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 小児看護の対象を理解し、小児看護の特徴がわかる。
- 2) 小児各期の特徴と小児が健康な生活を送るための養育について理解する。
- 3) 小児を取り巻く環境を理解し、健康問題との関連がわかる。
- 4) 小児の権利を尊重した看護や小児医療の課題がわかる。
- 5) 小児の成長・発達を支える諸制度とその活用がわかる。
- 6) 小児の各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する。
- 7) 小児看護に必要な基本的技術を身につける。
- 8) 疾病や障害を持つ小児と家族への看護を実施する。

専門分野・小児看護学 授業計画

授業科目及び時間数	小児看護概論 1単位 30時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	望月佳子	実務経験	有
<p><科目のねらい> 小児看護の対象を理解し、看護の特徴と理念を学ぶことがねらいである。</p> <p><到達目標> 1. 小児の成長発達を理解し、小児が健康な生活を送るために必要な援助について理解する。 2. 子どもの権利条約に基づいた関わり方や社会における法律や制度がわかる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 小児看護の対象 2. 小児と家族の諸統計	講義	プレテスト
2回目	1. 小児看護の変遷 2. 小児看護の目標・役割 3. 小児看護の課題	講義	
3回目	1. 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 医療現場で起こりやすい問題点と看護	講義	
4回目	1. 小児の成長と発達 1) 発達論 2) 一般的原則 3) 影響する因子 4) 評価	講義	
5回目	1. 小児各期の特徴と看護 1) 新生児期 2) 乳児期 3) 幼児期 4) 学童期 5) 思春期	GW 計画・個人学習	
6回目	1. 小児各期の特徴と看護 1) 新生児期 2) 乳児期 3) 幼児期 4) 学童期 5) 思春期	各期グループ内発表	
7回目	1. 新生児期の特徴と看護 1) 形態的特徴 2) 機能的特徴 3) 各機能の発達 4) 養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト	
8回目	1. 乳児期の特徴と看護 1) 形態的特徴 2) 機能的特徴 3) 各機能の発達 4) 養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト	
9回目	1. 幼児期の特徴と看護 1) 形態的特徴 2) 機能的特徴 3) 各機能の発達 4) 養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト	
10回目	1. 学童期の特徴と看護 1) 形態的特徴 2) 機能的特徴 3) 各機能の発達 4) 養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト	
11回目	1. 思春期の特徴と看護 1) 形態的特徴 2) 機能的特徴 3) 各機能の発達 4) 養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト	
12回目	1. 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとって家族とは 2) 家族のアセスメント	講義	
13回目	1. 小児と家族を取り巻く社会 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種 5) 学校保健 6) 特別支援教育 7) 臓器移植法	講義	
14回目	1. 小児看護で用いられる理論 1) セルフケア理論 2) 自我発達理論 3) 認知発達理論 他	講義	
15回目	終了試験		
評価方法	筆記試験 (60%)・プレテスト (30%)・ GW 内容 (10%)		
受講生に対するメッセージ	小児看護概論は、まず小児看護の対象と小児看護の概要を捉えます。そして、子どもを育てていく過程で必要な知識を学習していきます。グループワークが多いですが、みんなで楽しく学びましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
参考書			

専門分野・小児看護学 授業計画

授業科目及び時間数	小児の疾患 1単位 30時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	福岡哲哉他	実務経験	有
<p><科目のねらい> 健康障害のある小児の疾患・治療の特徴を理解することがねらいである。 <到達目標> 1. 小児看護の実践に必要な小児の各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 染色体異常・先天異常 1) 常染色体異常 2) 性染色体異常 3) 胎芽病と胎児病	講義	
2回目	1. 新生児の疾患 1) 分娩外傷 2) 適応障害 3) 感染症	講義	
3回目	1. 低出生体重児の疾患 1) 脳室内出血 2) 呼吸窮迫症候群 3) 新生児壊死性腸炎 4) 未熟児貧血 5) 未熟児網膜症 他	講義	
4回目	1. 小児の呼吸器疾患 1) 上気道の疾患 2) 気管支・肺・胸腺疾患	講義	
5回目	1. 小児の消化器疾患 1) 横隔膜の疾患 3) 胃・十二指腸の疾患 2) 食道の疾患 4) 小腸・大腸の疾患 他	講義	
6回目	1. 小児の神経疾患 1) 神経系の先天異常 2) けいれん性疾患 3) 中枢神経系の血管性疾患 4) 脳性麻痺 他	講義	
7回目	1. 小児の運動器疾患 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸 4) 骨折	講義	
8回目	1. 小児の発達	講義	
9回目	1. 小児の精神疾患と発達障害 1) 発達障害 2) 神経症圏の疾患 他	講義	
10回目	1. 小児の代謝疾患 1) 新生児マスキング 2) 先天代謝異常症 3) 代謝性疾患 2. 小児の内分泌疾患 1) 下垂体疾患 2) 甲状腺疾患 3) 副甲状腺疾患 4) 性腺の異常	講義	
11回目	1. 小児の腎臓・泌尿器疾患及び生殖器疾患 1) 先天性腎尿路異常 2) 糸球体疾患 3) 尿細管間質疾患 4) 慢性腎臓病 5) 急性腎臓病 6) 生殖器・外性器の疾患	講義	
12回目	1. 小児の感染症・ワクチン 1) ウイルス感染症 2) 細菌感染症 3) 真菌感染症 4) ワクチン	講義	
13回目	1. 小児の免疫・アレルギー性疾患 1) アレルギー性疾患 2) 原発性免疫不全症 3) リウマチ性疾患	講義	
14回目	1. 小児の血液疾患と小児癌 1) 貧血 2) 出血性疾患 3) 造血器腫瘍 4) その他の固形腫瘍	講義	
15回目	1. 小児の循環器疾患 1) 先天性心疾患 2) 川崎病 3) 後天性心疾患 4) 心臓律動の異常 5) 突然死	講義	
16回目	終了試験	看護教員	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	小児の病気は先天異常や小児特有の病気があります。また、大人と同じ病気でも子どもの機能の未熟性から症状の現れ方が異なります。子どもは病気が良くなるのも悪くなるのも早いです。状況の判断ができる知識を身につけ、異常の早期発見ができるようになりましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院		
参考書			

専門分野・小児看護学 授業計画

授業科目及び時間数	小児と家族の看護 1単位 30時間			
開講時期	2年次 後期			
担当教員	望月佳子 大多和まき 塚田可奈子 高橋美保 望月ます美	実務経験	有	
<p><科目のねらい> 健康障害を持つ小児と家族が生活・療養するために必要な看護の知識と安全・安楽な技術を学ぶことがねらいである。</p> <p><到達目標> 1. 健康障害の様々な病期や環境における子どもと家族を理解し子どもや家族に必要な看護が考えられる。</p>				
授業計画・内容・担当教員				
1回目	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護	講義 (望月)		
2回目	1. 不安・苦痛を軽減する援助 1) ディストラクション 2) プレパレーション	講義 (HPS 望月)		
3回目	1. 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期の特徴と子どもと家族の看護	講義 (大多和)		
4回目	1. 周手術期の子どもと家族の看護 1) 周手術期の特徴と子どもと家族の看護	講義 (大多和)		
5回目	1. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 子どもにとっての検査・処置体験 2) 様々な検査・処置を受ける子どもの看護	講義 (望月)		
6回目	1. ハイリスク新生児と家族の看護 1) 低出生体重児の看護 2) 高ビリルビン血症の新生児の看護	講義 (塚田)		
7回目	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 1) 慢性期の特徴と子どもと家族の看護	講義 (望月)		
8回目	1. 障がいのある子どもと家族の看護 1) 障がいのある子どもと家族の特徴と社会的支援	講義 (高橋)		
9回目	1. 終末期の子どもと家族の看護 1) 終末期の特徴と子どもと家族の看護	講義 (望月)		
10回目	1. 子どもの状況(環境)における看護 1) 外来・入院中・在宅・災害時の子どもと家族の看護	講義 (望月)		
11回目	1. 子どもの虐待と看護 1) 子どもの虐待の状況と求められるケア	講義 (望月)		
12回目	1. 小児の看護技術① 1) フィジカルアセスメント	講義・演習 (望月)		
13回目	1. 小児の看護技術② 1) 与薬 2) 輸液管理 3) 経管栄養法	講義・演習 (望月)		
14回目	1. 小児の看護技術③ 1) 呼吸・循環管理 2) 救急蘇生法	講義・演習 (望月)		
15回目	終了試験	(望月)		
評価方法	筆記試験 100% (望月 60% 大多和 20% 塚田 10% 高橋 10%)			
受講生に対するメッセージ	この科目は、病気や障害のある子どもと家族の看護を学びます。教科書上の知識だけでなく、臨床でのリアルな話が聞けます。3年次の実習に直接繋がるので興味をもって学習しましょう。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院			
参考書	根拠と事故防止からみた小児看護技術			

専門分野・小児看護学 授業計画

授業科目及び時間数	小児看護の展開方法 1単位 15時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	望月佳子	実務経験	有
<p><科目のねらい> 各発達段階における健康障害を持つ小児と家族を理解し、看護展開ができる基礎的能力を身につけることがねらいである。</p> <p><到達目標> 1. 小児が健康障害を持つことにより生じる問題をとらえ、小児の発達段階に応じた小児と家族への看護が考えられる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	小児看護の展開方法	講義	
2回目	乳児期の病児と家族の看護（急性胃腸炎の病児の事例展開）	グループワーク	
3回目			
4回目	幼児期の病児と家族の看護（気管支喘息の病児の事例展開）	グループワーク	
5回目			
6回目	学童期の病児と家族の看護（ネフローゼ症候群の病児の事例展開）	グループワーク	
7回目			
8回目	終了試験	望月佳子	
評価方法	課題学習（60%） 筆記試験（40%）		
受講生に対するメッセージ	この科目は、DVDの事例を活用して、看護の展開をしていきます。課題学習が多いですが、3年次の実習に繋がるので頑張りましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院		
参考書	発達段階からみた小児看護過程 医学書院		